



早いもので、今年も残すところ1ヶ月を切りました。毎朝、マイナス10℃以下に耐えるET研究所です…。さて、子宮炎・子宮内膜炎は、乳牛の繁殖成績を低下させる要因の1つであり、受胎の遅れによる経済損失が問題点として挙げられます。先日、『家畜感染症学会』において、獣医師を対象に子宮炎・子宮内膜炎に関する全国アンケートを実施しました。今回は、そのアンケート結果の一部を紹介いたします。

乳牛の子宮炎・子宮内膜炎の診断・治療方法ならびにその問題点

ー乳牛の子宮炎・子宮内膜炎に関する全国アンケート調査からー

大滝ら,家畜感染症学会誌,Vol.5 No.3, p99-111, 2016

○アンケート

- ・回答者: 全国の臨床獣医師、開業獣医師、家畜保健衛生所獣医師、人工授精師
- ・回答者数: 240名
- ・アンケート内容

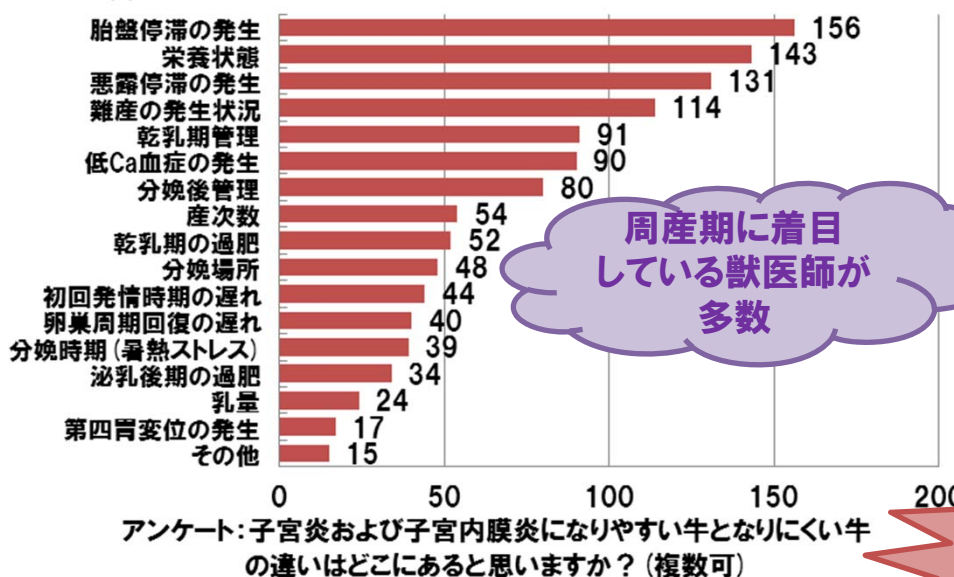
罹患しやすい牛の特徴

この項目をご紹介します

診断方法

治療方法

予防方法



アンケートの結果、胎盤停滞や低Ca血症などの周産期疾病、難産、乾乳期管理の失宜が、子宮炎や子宮内膜炎の原因になると考える獣医師が多いことが分かりました。そして、これらの項目は乾乳期以降の一連の出来事として捉えることができます。乾乳期管理が不適切(飼料給与メニュー、分娩環境など)な場合、難産の発生率や周産期疾病(低Ca血症、胎盤停滞など)の罹患率が上がります。その結果が、子宮炎や子宮内膜炎として表れていると言えるのではないのでしょうか。

子宮炎や子宮内膜炎を発症すると、繁殖成績の低下を招きます。その対策として、乾乳期管理の改善や周産期疾病予防が有効となる可能性もありますので、参考にいただければと思います。

なお、ET研究所では子宮炎・子宮内膜炎の診断手法として、『メトリチェック』という棒を使って腔内粘液の評価にも取り組んでいます。先日、ブログ記事でも取り上げましたので、合わせてご覧ください。

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

<http://etken-blog.lekumo.biz/et/2016/10/post-0936.html>

文責 大日方